

市議会アンケート結果 報告書

令和3年8月
小田原市議会

市議会アンケートについては、小田原市議会基本条例第7条第2号において「広く市民の意識を把握するために、市民に対するアンケート調査を必要に応じて行うこと」という規定に基づき実施したものです。実施にあたっては、議会広報広聴常任委員会で協議を行い、コロナ禍の状況に鑑み、従来の紙媒体ではなく、インターネットによるアンケートを実施することに決定し、令和3年3月10日から5月31日にかけて市議会ホームページ上でアンケート機能（小田原市電子申請システム）を用いて実施したものです。

調査項目一覧

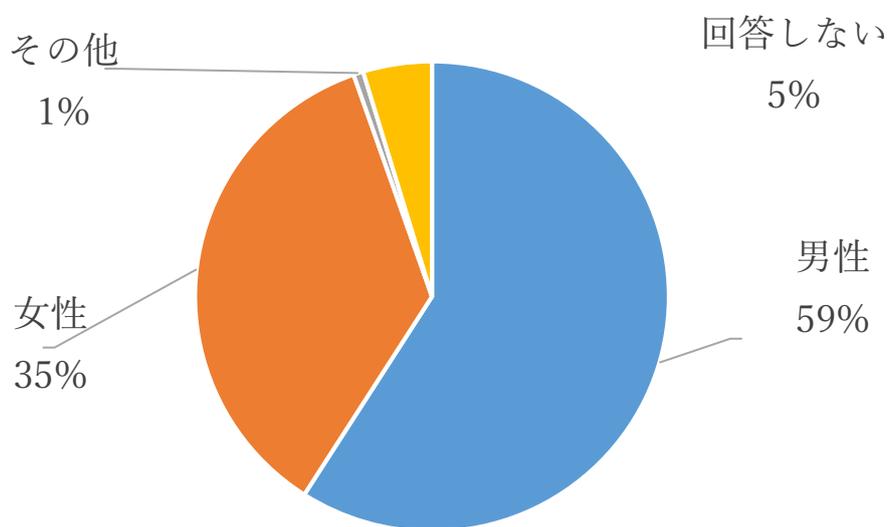
- 1 あなたの性別を教えてください
- 2 あなたの年齢を教えてください
- 3 あなたの居住地を教えてください
- 4 あなたの職業を教えてください
- 5 このアンケートを回答するきっかけを教えてください
- 6 小田原市議会議員選挙の投票に行ったことがありますか
- 7 問6で「ある」と答えた理由について当てはまるものを選んでください
- 8 問6で「ない」と答えた理由について当てはまるものを選んでください
- 9 議会の活動に興味、関心がありますか
- 10 興味・関心がある理由について当てはまるものを選んでください
- 11 興味・関心がない理由について当てはまるものを選んでください
- 12 市議会の会議を見たことがありますか
- 13 どのような工夫をすれば市議会の会議を見る機会が増えると思いますか
- 14 市政に関して要望や意見がある場合、どのように行動をしますか
- 15 市議会や議員に何を期待しますか
- 16 あなたが今、市政に関して関心のある分野は何ですか
- 17 最後に議会へのご意見、ご要望などがありましたら自由にご入力ください

目次

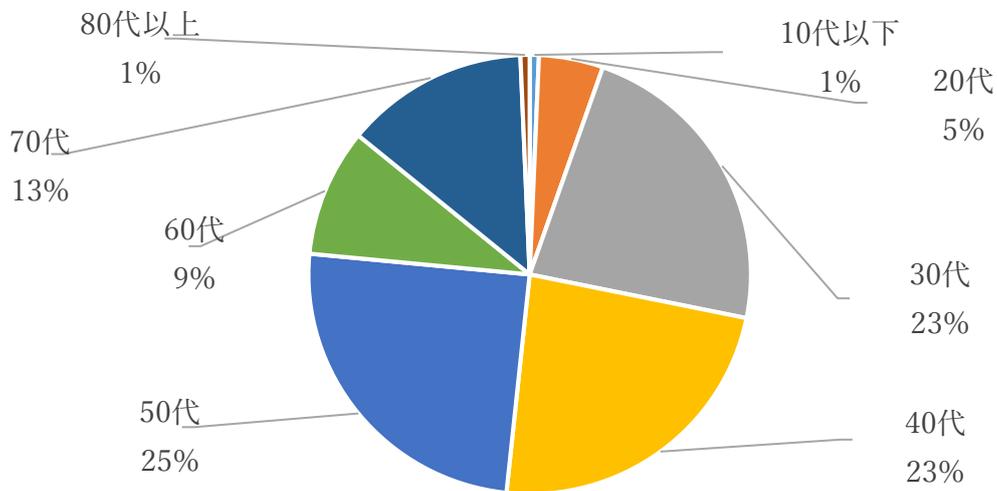
・ 性別	3 ページ
・ 年代	4 ページ
・ 居住地	5 ページ
・ 職業、アンケート回答のきっかけ	6 ページ
・ 投票に行ったことがあるか、投票を行った理由など	8 ページ
・ 議会への興味・関心、その理由	9 ページ
・ 興味関心がない理由、市議会の会議を見たことがあるか	10 ページ
・ どのような工夫をすれば市議会の会議を見る機会が増えるか	11 ページ
・ 市議会や議員に何を期待するか、市政に関心のある分野	12 ページ
・ 日にちごとの回答状況	13 ページ
・ 回答の時間帯	14 ページ
・ 告知媒体ごとの回答状況	15 ページ
・ ご意見・ご要望（自由記載）	17 ページ
・ アンケート手法に対する考察等	23 ページ

1. 性別

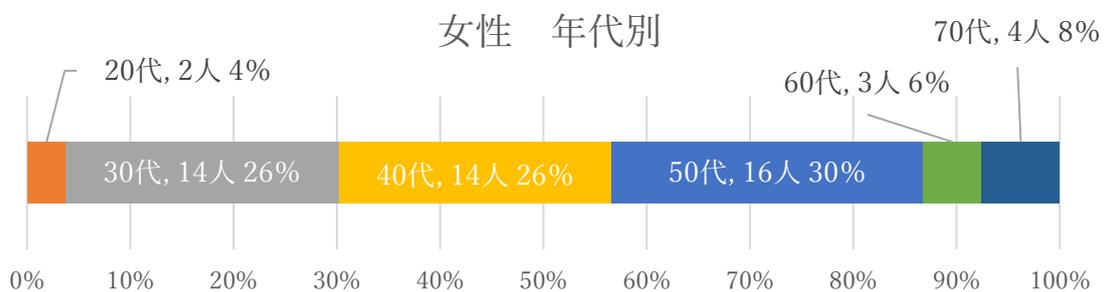
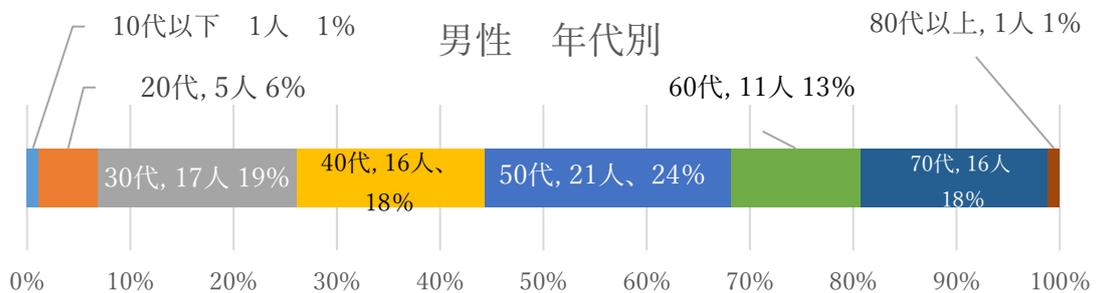
	男性	女性	その他	回答しない	合計
10代以下	1	0	0	0	1
20代	5	2	0	0	7
30代	17	14	0	3	34
40代	16	14	1	4	35
50代	21	16	0	0	37
60代	11	3	0	0	14
70代	16	4	0	0	20
80代以上	1	0	0	0	1
合計	88	53	1	7	149



2. 年代



年齢層について、30代から50代がそれぞれ全体の約25%を占め、最も回答の多い年代となり、回答者の若年化がみられた。インターネットを用いての調査であったが、60代から80代の回答が全体の約23%を占めた。



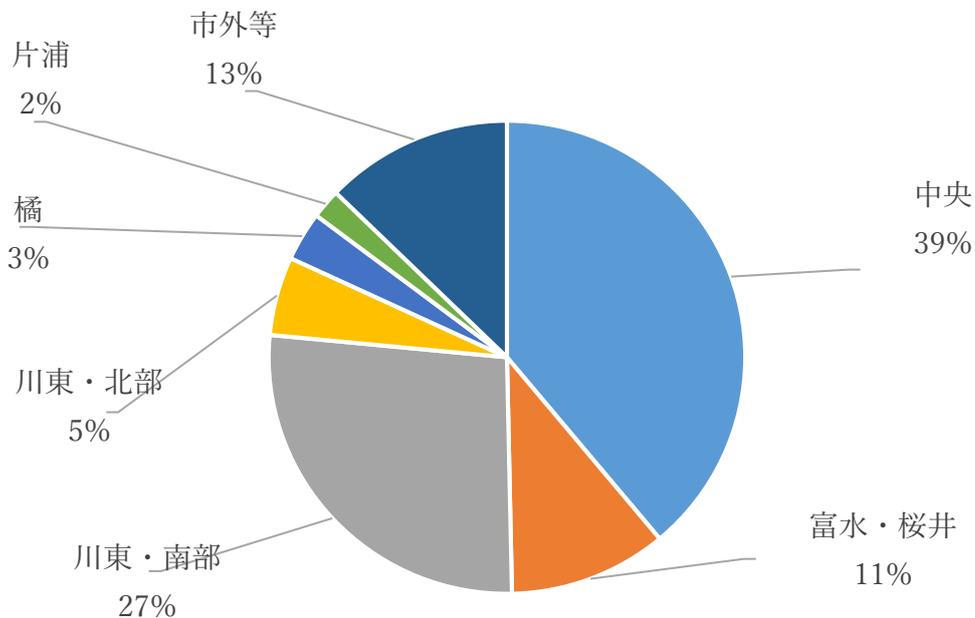
男女別によると女性の方が若年化の傾向が強く、男性は60代以上の回答の割合が女性の2倍以上であった。

3. 居住地

	中央	富水・桜井	川東・南部	川東・北部	橘	片浦	市外等	合計
回答数	58	16	40	8	5	3	19	149

中央	早川、板橋、南板橋、風祭、入生田、水之尾、栄町、中町、浜町、本町、城内、南町、寿町、東町、城山、扇町、緑、十字、荻窪、谷津、池上、井細田、多古、久野
富水・桜井	蓮正寺、中曾根、飯田岡、堀之内、柳新田、小台、新屋、府川、北ノ窪、清水新田、穴部、穴部新田、曾比、栢山
川東・南部	下堀、中里、矢作、鴨宮、上新田、中新田、下新田、南鴨宮、国府津、田島、酒匂、西酒匂、小八幡
川東・北部	飯泉、成田、桑原、別堀、高田、千代、永塚、東大友、西大友、延清、曾我原、曾我谷津、曾我別所、曾我原、上曾我、下大井、鬼柳、曾我大沢
橘	前川、羽根尾、中村原、上町、小船、山西、沼代、小竹
片浦	石橋、米神、根府川、江之浦

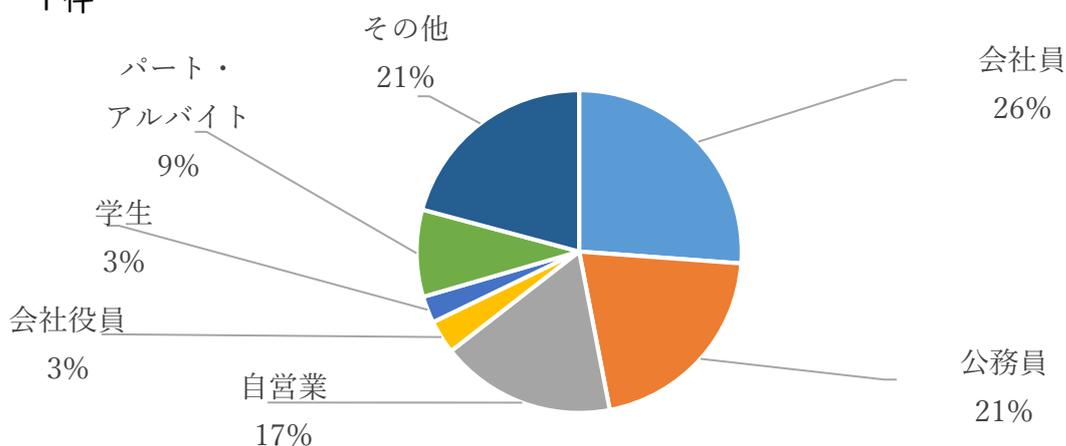
※字ごとに回答が多かったのは、栄町(11件)、扇町(9件)、酒匂(8件)



4. 回答者の職業

	会社員	公務員	自営業	会社役員	学生	パート・アルバイト	その他	合計
回答数	39	31	26	5	4	13	31	149

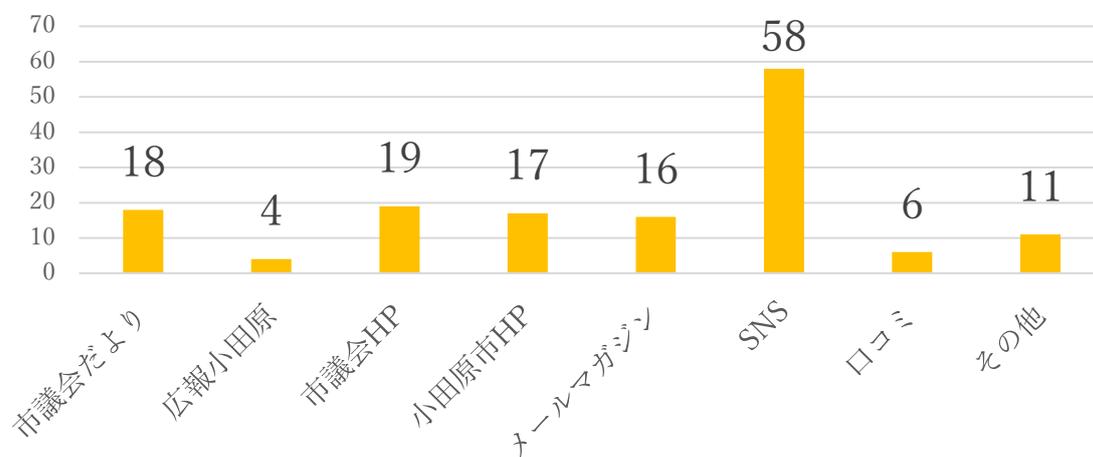
※「その他」の内訳は無職17件、主婦5件、フリーランス3件、農業1件、芸術関係1件、地方議会議員1件、派遣社員1件、法人役員1件、記載なし1件



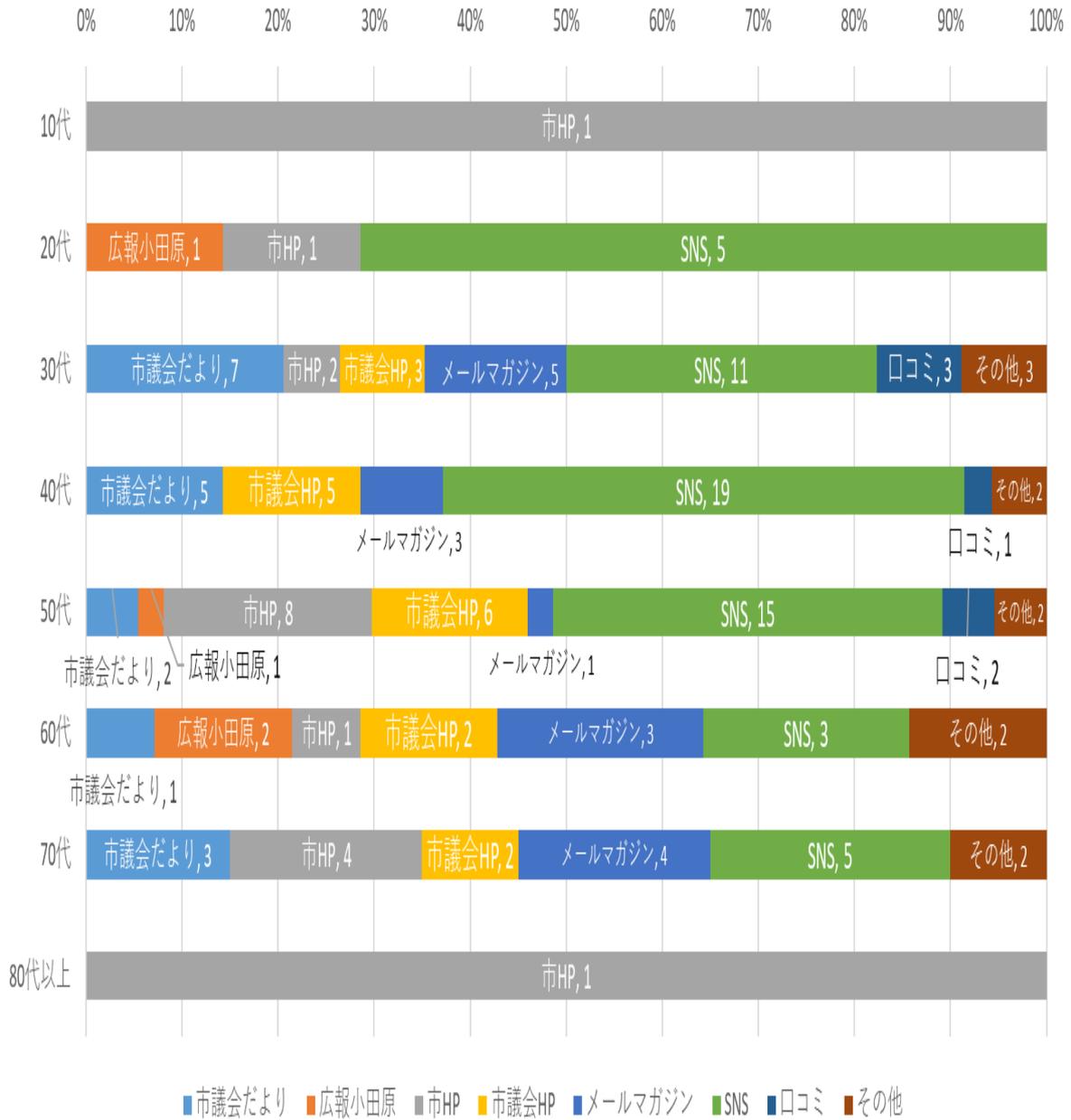
5. アンケートを回答するきっかけ

アンケートの回答に至ったきっかけについては、SNSやホームページなど、インターネット媒体のものが全体の約75%を占めた。しかし、媒体ごとに回答者の年齢層を集計すると、特定の年齢層に大きく偏るほどではなかった。

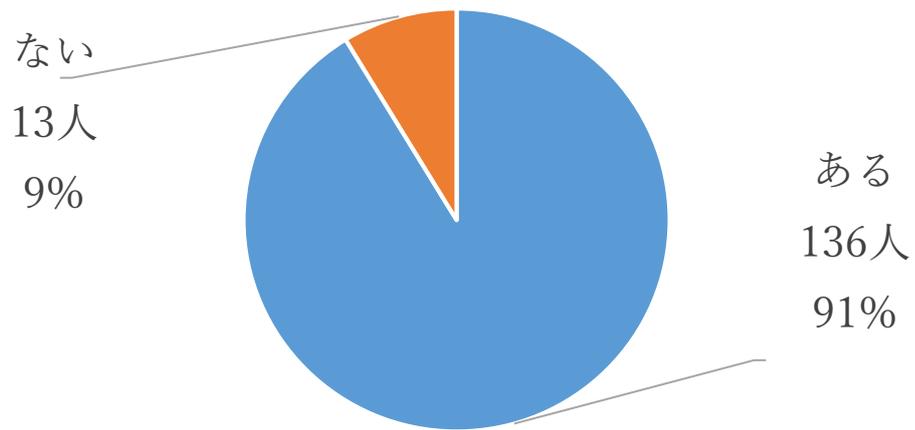
その他の内訳は、タウンニュースやインターネットの記事のほか、議会広報広聴常任委員会の会議をインターネットで視聴したというものもあった。



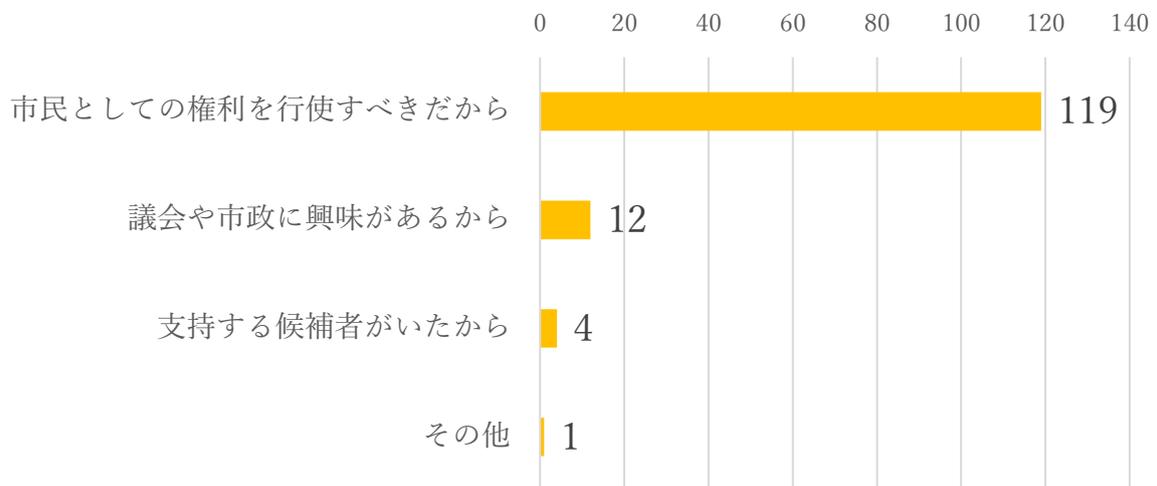
年代ごとの利用媒体の内訳



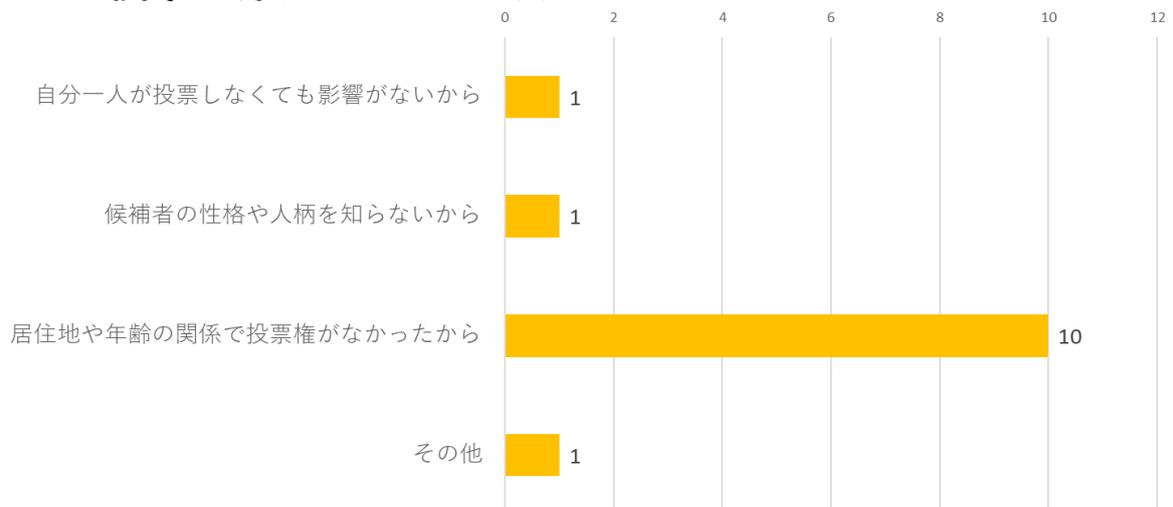
6. 市議会議員選挙の投票に行ったことがありますか



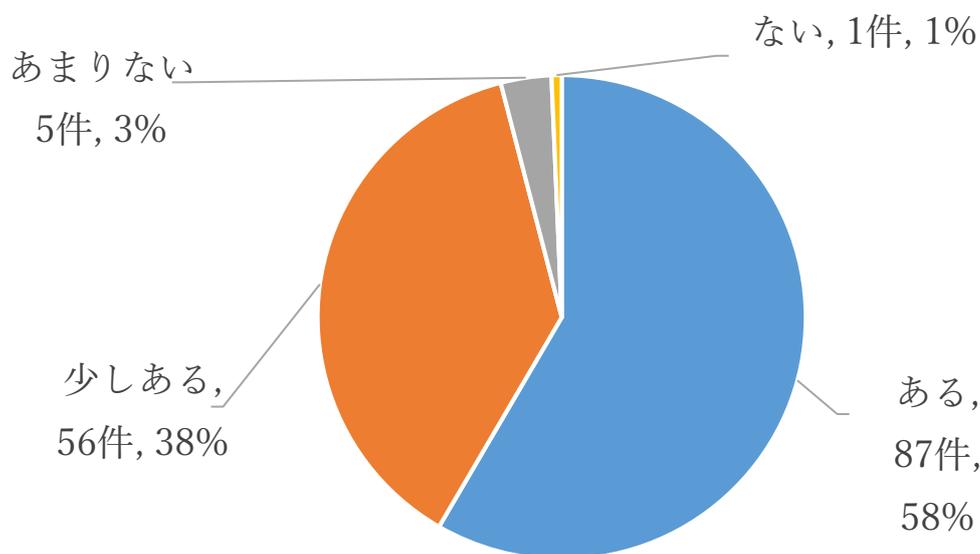
7. 投票を行った理由



8. 投票を行わなかった理由



9. 議会への興味・関心

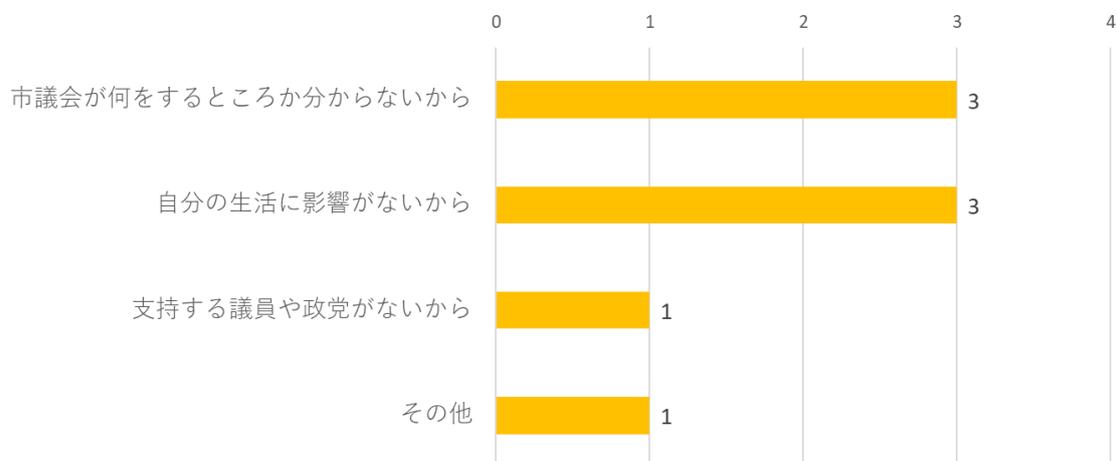


議会への興味関心については、「ある」、「少しある」の合計が96%であった。一方、関心が「ない」、「あまりない」という回答は4%（6件）であったが、そのうち2件は市議会のインターネット中継を見たことがあり、市政全体への関心はあるとのことであった。このように回答者の殆どが日ごろから一定の関心を持った層であると考えられ、自由記載意見の内容もホームページや議会だよりの詳細な改善等、踏み込んだものがみられた。

10. 興味関心がある理由（複数回答可）

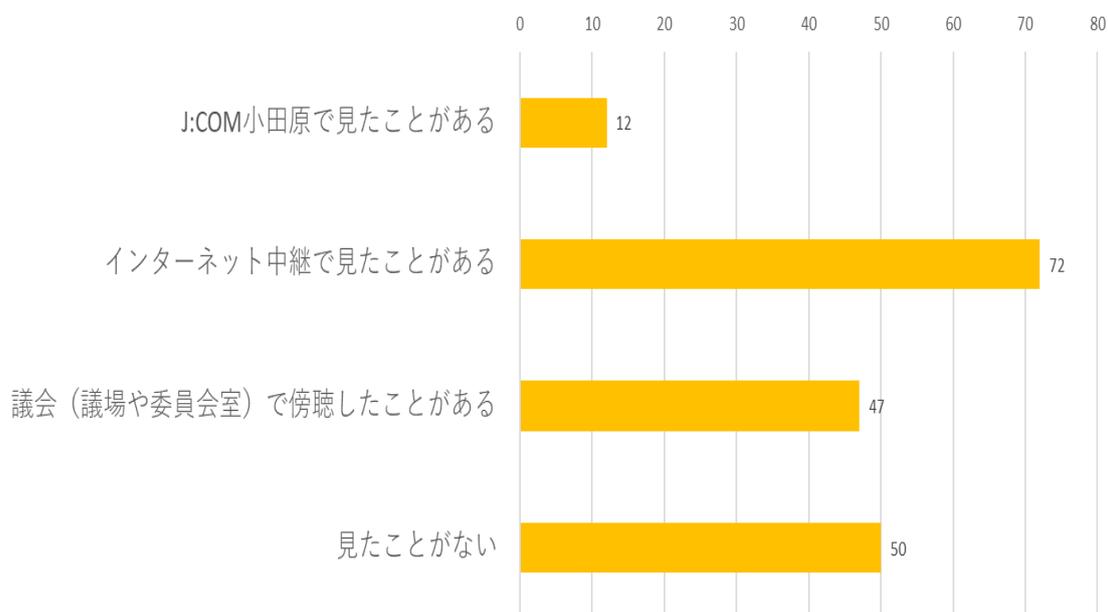


11. 興味関心がない理由（複数回答可）



12. 市議会の会議を見たことがありますか（ある場合はその方法）

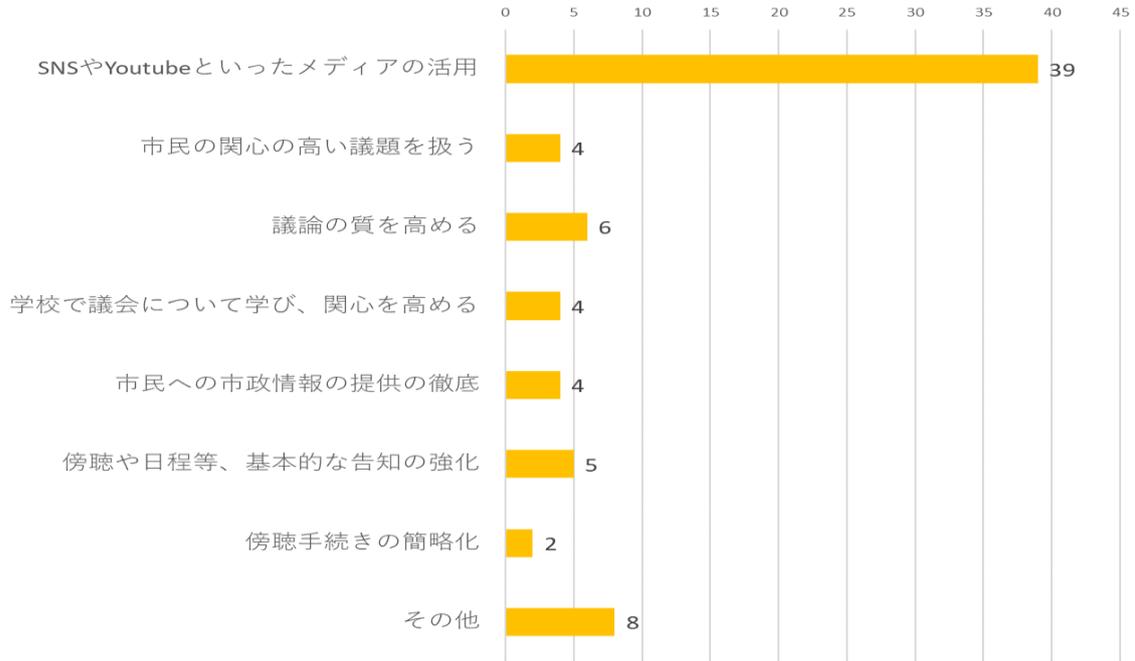
※複数回答可



※インターネット中継で見たことがあると回答した年代層は、30代から50代がほぼ同数で多く、その3世代が回答のうち82%を占める。

13. どのような工夫をすれば市議会の会議を見る機会が増えると

思いますか ※複数回答可

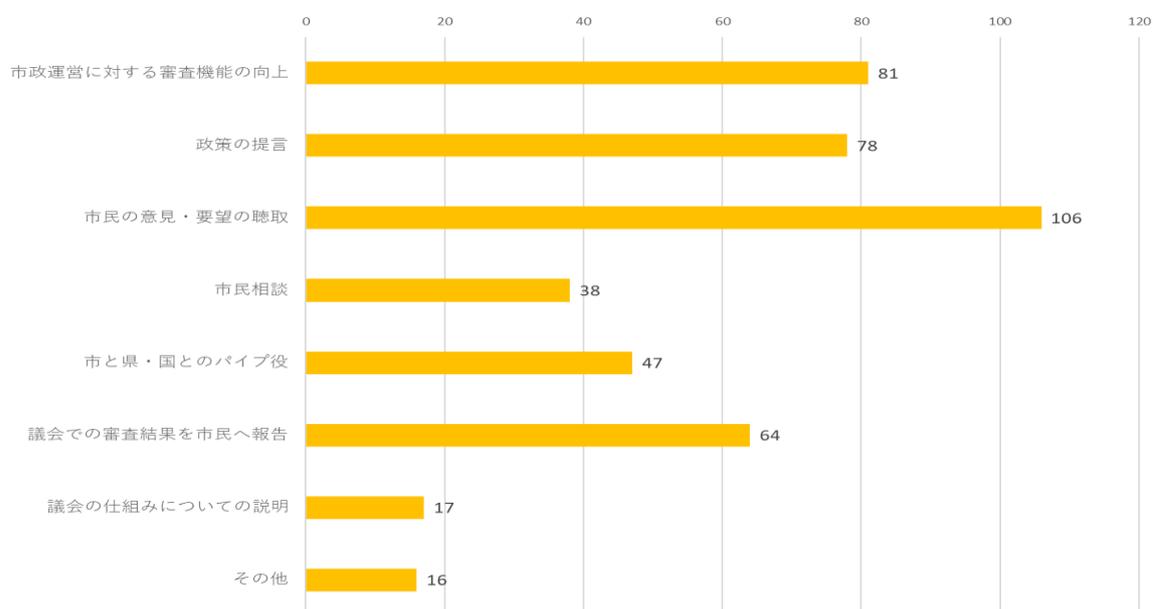


14. 市政に関して意見や要望がある場合、どのように行動をしますか

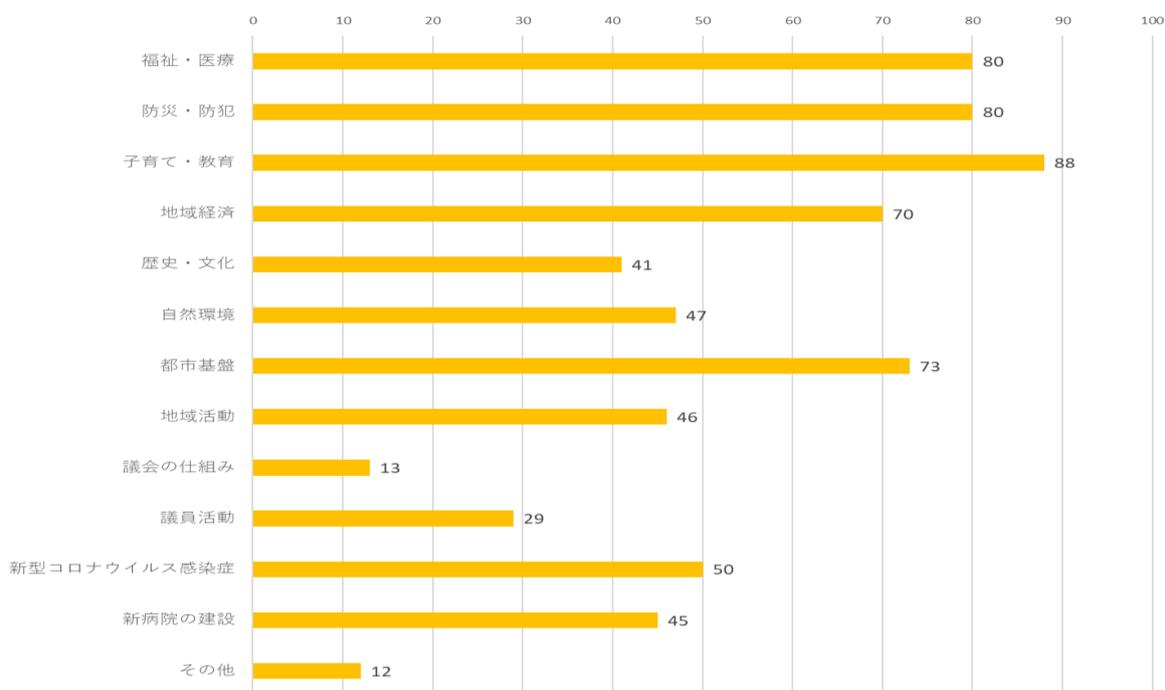
※複数回答可



15. 市議会や議員に何を期待しますか ※複数回答可



16. あなたが今、市政に関して関心のある分野は何ですか ※複数回答可



回答数が多かった項目を年代別に再集計すると、基本的には全体の傾向（30代から50代が過半数）のとおりであったが、子育て・教育については特にその傾向が強く、上記世代が約80%を占めた。一方、福祉・医療については60代以上の割合が他の設問より多く、約30%を占めた。

日にちごとの回答状況 ※色塗りは以下の告知を行った日

3月10日、26日：議会メールマガジン

4月19日：ケーブルテレビ

5月11日：市メールマガジン

※上記に加えて毎月初旬には広報小田原、5月初旬には市議会だよりが発行

【3月の回答状況】

月	火	水	木	金	土	日
3月1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日
8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日
		36	25	10	10	1
15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日
3	0	6	1	0	4	0
22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日
1	1	2	1	1	1	0
29日	30日	31日				
0	2	0	3月計		105件	

※アンケート開始後、最初の1週間で全体のうち約57%の回答（85件）が届いている。

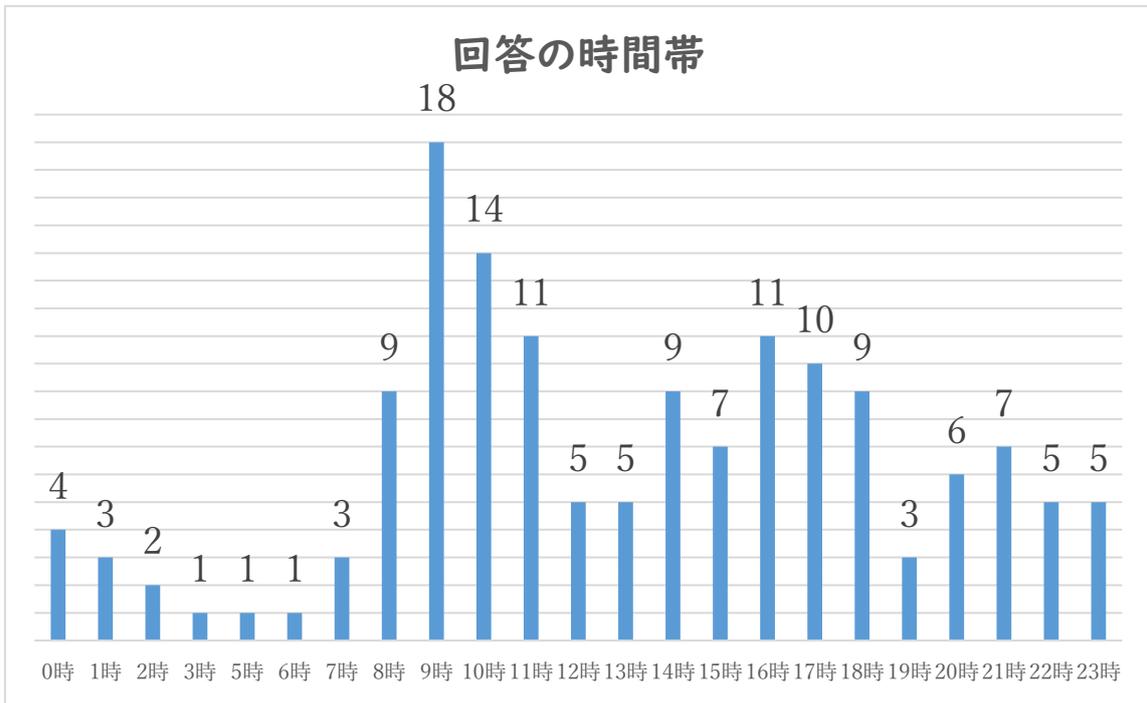
【4月の回答状況】

月	火	水	木	金	土	日
			4月1日	2日	3日	4日
			2	1	1	1
5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日
2	0	0	1	0	1	1
12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日
1	0	0	0	0	0	0
19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日
0	0	0	0	0	0	0
26日	27日	28日	29日(祝)	30日		
0	0	2	2	1		

4月計 16件

【5月の回答状況】

月	火	水	木	金	土	日
					5月1日	5月2日
					0	0
3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日
0	0	0	0	0	0	0
10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日
0	13	3	0	0	0	0
17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日
0	0	1	0	0	0	1
24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日
1	1	3	2	2	1	0
31日						
0	5月計		28件			



9時付近と16時付近の回答が多かったが、場所や時間を問わずインターネットで回答ができるため、夜間～早朝帯（21時～7時）が全体の約21%を占めた。その時間帯に回答した年齢層としては、30代と40代が主であった。

【3月から4月の回答状況（告知媒体ごと）】※色塗りはその媒体が

発行・公開・放送された日で、それより前は「-」の表示となっている。

【3月の回答状況（告知媒体ごと）】※色塗りはその媒体が発行・配信された日

	3月10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
SNS	8	19	5	6	0	0	0	6	1	0	1	0
市HP	3	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
議会HP	3	4	1	2	0	3	0	0	0	0	0	0
議会だより	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
議会メルマガ	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市メルマガ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
CATV	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	3月22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
SNS	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0
市HP	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
議会HP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
議会だより	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
議会メルマガ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市メルマガ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
CATV	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【4月の回答状況（告知媒体ごと）】※色塗りはその媒体が発行・配信された日

	4月1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
SNS	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0
市HP	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
議会HP	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1
議会だより	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
議会メルマガ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市メルマガ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
CATV	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

	4月13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
SNS	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市HP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
議会HP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
議会だより	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
議会メルマガ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市メルマガ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
CATV	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0

【4月から5月の回答状況（告知媒体ごと）】※色塗りはその媒体が

発行・公開・放送された日で、それより前は「-」の表示となっている。

	4月25日	26日	27日	28日	29日	30日
	日	月	火	水	木	金
SNS	0	0	0	0	0	1
市HP	0	0	0	0	1	0
議会HP	0	0	0	1	0	0
議会だより	0	0	0	0	1	0
議会メルマガ	0	0	0	0	0	0
市メルマガ	-	-	-	-	-	-
CATV	0	0	0	0	0	0

【5月の回答状況（告知媒体ごと）】※色塗りはその媒体が発行・配信された日

	5月1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
SNS	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
市HP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0
議会HP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
議会だより	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
議会メルマガ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	2
市メルマガ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0
CATV	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	5月13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
SNS	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
市HP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
議会HP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
議会だより	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
議会メルマガ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市メルマガ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
CATV	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	5月25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日
	火	水	木	金	土	日	月
SNS	1	0	0	1	0	0	0
市HP	0	0	0	0	0	0	0
議会HP	0	0	0	0	0	0	0
議会だより	0	1	1	1	0	0	0
議会メルマガ	0	1	0	0	0	0	0
市メルマガ	0	0	0	0	0	0	0
CATV	0	0	0	0	0	0	0

17. 議会へのご意見・ご要望（自由記載）と課題、解決策

※回答者の個人情報や個々の議員に関する意見を除く

市議会議員や市政全般に関わる意見については、議長及び担当部局に情報提供を行う

【ホームページ等に関する主な意見】

- ・ ホームページは難しい表現をせず、もう少しわかりやすい表現を使った方がいい。
- ・ 他の都市と比べて HP はわかりやすいと思いますが、住民への訴求が今一つなのかなと思います。議会では今何が議論されて、可決・否決されたのかをわかりやすく伝えてほしいです。議会広報に加え、速報性の高い SNS 活用、場合によってはタウン紙の活用など、存在や役割を巧みにアピールしてほしいと思います。
- ・ 「市長のホームページ」があるんですから「議会のホームページ」があってもいい。これほど多難な時に議員各人がどのような発言・行動をされているのかがまるでわからない。たまに届く市議会だよりだけでは不十分。
- ・ YouTube の小田原市議会アカウントに、動画があったりなかったりするの理解できない。YouTube の方が閲覧しやすいので充実して欲しい。例えばジャンル別に分けたり、議員別に分けたりして手軽に閲覧できるようにして欲しい。
- ・ 市議会ホームページ
<https://www.city.odawara.kanagawa.jp/citycounc/system/kaigiroku.html> から、会議録と会議動画配信がどこにあるか分かりにくい。それぞれのリンクをわかりやすく配置すべきだと思う。
- ・ 議会のインターネット中継を視聴しているが、殆ど質問者と回答者が映っている状況であり、他の議員席や傍聴席も時々カメラを回してもらいたい。

【課題】

- ・ ホームページの使いにくさ
- ・ 議会の日ごろの活動やその中で行われていることが見えにくい

【解決案等】

- ・ ホームページについては表現の見直しと、解説の追加等により使いやすさの向上を図る。
- ・ 他のメディアを活用し、ホームページや Youtube の閲覧につなげ、議会への興味喚起を図る。
- ・ 今回の調査では SNS やメールマガジンといった個人に向けて発信するタイプの媒体がより周知につながっていたため、引き続き活用していく。

【その他広報に関する主な意見】

- ・ 市議会だよりが、「どの議員が何の質問をしたか」を伝える広報になっている。記事の文字数が少ない、課題ごとにまとめる、顔写真不要。市議会 HP の質問通告をスマホで見ると、質問内容が 5 文字程度しか掲載されない。スマホで確認していないことがよくわかる。
 - ・ 小田原市は、市や議会とのコミュニケーションがほとんど取られてなく、何が行われているか分からない・・・議会での議事内容や、小田原城でのイベント、minakaのできる経緯など。市民からの伝える手段も少ない、メールがあるが言い訳が多く真摯な答えがあったことがない。
 - ・ SNS やネットを活用してアクセスしやすい情報発信を期待します。
 - ・ 市議会の果たしている役割や、現在の具体的な取り組み(新しい規定の整備状況等)について、定期的に、簡潔に市民に報告してもらいたい。
-

【課題】

- ・ 議会としての定期的な情報発信（議会だより等）と市民の求める情報との差異が生じている。
- ・ 議会が何をしているところかがよく分からないという認識が上記の意見以外にアンケートの設問でも一定数あり、議会が身近なことに関与しているという印象が持ちにくい。

【解決案等】

- ・ 市議会だよりは全世帯へ配付されるため、いかに興味をもって読んでもらうかを前提にレイアウト等の改善を行う。
- ・ 令和 3 年度からは市内の小学生を対象に、市議会の議場等を見学し、議員との質疑応答等を行う「議場見学会」を実施するため、その保護者も含めて議会に関心を持つきっかけとなるように開催方法を工夫する。

【広聴に関する主な意見】

- ・若い世代を含めた多くの人達が、最も身近な政治である市議会をジブンゴトとして捉えることは、市の将来だけでなく、国の未来にも大きな影響を与えることができると思います。その為にも市議会をもっと親しみやすく、近い距離であるということを感じてもらう必要があるのではないのでしょうか。素敵な意見をもった若い世代はたくさんいます。その意見をしっかりと、そして簡単に伝えることができる市議会になることを祈っております。
 - ・党派性を超えて、市民が身近な要望やアイデア投稿できるような制度はありますか？投稿して、もし興味を持ってくださる市議さんがおられたらヒアリングに来てくださるような、市民と市議の出会いの場となるような仕組みがあると嬉しいです。地域の要望は自治会を通してなどと言われますが、実際革新的な要望は自治会には出しにくいのが現実かと思います。
 - ・誰もが気軽に相談出来る窓口を(SNSなどの利用も含め)設けて欲しい。全てにおいて透明性をもって、市民に示して欲しい。
 - ・市民の意見を今回のようにインターネット無記名で聞いていただけると嬉しい。
-

【課題】

- ・議会への意見を持った若い世代は多数いるが、現状では議会に関心を持ちにくく、その意見を伝える方法がない。
- ・市民と議会の距離があり、身近な要望や意見を届ける制度、窓口がない。
- ・引き続き、インターネットでの意見聴取を行う必要がある。

【解決案等】

- ・若い世代をはじめとした潜在的な意見を把握するため、議会との接点や関心を持ち得る機会がどこにあるのかを考慮し、親しみやすく意見の提出につながる仕組みを検討する。
- ・今回の結果を踏まえ、次回のインターネット調査の際はより多く詳細な意見が聴取できるよう、設問や告知の工夫を行う。

【市議会議員に関する主な意見】

- ・議員の人数を減らして欲しい、多すぎる。
- ・議員数の男女格差解消に取り組むべき。
- ・女性議員の割合を半分に増やしてほしいです。
- ・市民が選んだ人々で構成される市議会ですから市民の思いを大いに反映していただきたいと思います。
- ・議員の議会質問の中に「なんでこんなことを？」とってしまうものがたまに出てくる。議員さんによって資質の差が大きいですね。「市民から信託された」という自覚をもっと持ってほしい残念な議員さんもいらっしゃるの現実です。次期の市議会議員選挙には私も立候補しようと考えてます。
- ・市民が選んだ人々で構成される市議会ですから市民の思いを大いに反映していただきたいと思います。
- ・議員にもよるが、早口で聞き取りにくいことや簡潔明瞭でない、また、議員間で同様質問が散見されるので、議会のクオリティーを高めてほしい。
- ・会派などにとらわれず10年、50年先の在るべき小田原の姿に真摯に関わって欲しい。そういう熱心な議員が育つ議会であって欲しい。

【市政全般に関する主な意見】

- ・児童館のようなものがなく、子育て時代に苦戦したので、今後そのような施策を打ち出してくれることを期待する。学校だけだと、放課後の居場所としては不十分と感じている。
- ・日本がどんどん衰退していくのを見るのは悲しいです。箱根に近く、住むのも温暖で、1時間圏内で多くの場所に行けるこの小田原の立地を、なぜもっと活かさないのか、と思います。観光客や住む人を増やす方法はあるはずで、小田原の未来を本気で考えて、過去のやり方に縛られず、新しい未来を創ってほしいと思います。
- ・小田原市は茹でガエル状態だという事を市民も議会も役所も市長も認識した方が良く、よく言われているが、自然、立地、交通、インフラ、文化歴史がここまで整っているのに衰退しているのは、過去にあぐらをかいているから。予算やマンパワー等資源に限りがあるのはわかっているが、このコロナを機会に子育て世代を呼び寄せないといけない。小田原より東京から遠い三島周辺自治体は人口を増やせている。これ以上失政を続けないで。
- ・小学校の授業にオンラインで協力してほしい。
- ・災害発生時の避難場所にペット同伴可とされた施設が多数あるが、それらは

冷暖房の整ったところばかり。このことは一部の市民の意見だけで防災マップ作成時に決めてしまったと聞く。近くにタウンセンターいずみ(冷暖房有り、ペット同伴可)があるが、私たちは動物が大の苦手。そうすると環境の悪い泉中学か諏訪の原公園に行くしかない。高齢者を抱える我が家は大変困る。ペット同伴可は泉中学か諏訪の原公園の方に変更して下さい。

- ・ いつもお疲れ様です。子供やお年寄りが安心して暮らせる街になるよう、ご尽力いただければ幸いです。車の運転ができなくても、バスなどの交通機関で図書館や駅、市内の施設へもっと簡単にアクセスできるようになると良いのですが。
- ・ 市議会の内容を書面で拝見する限り、市内各地域の課題が多く、さらに質問も踏み込めておらず、回答も曖昧な内容が多い。市長にも市議会議員にも小田原市の将来を大局的観点から提案し、議論、実行することをお願いしたい。

【今回のアンケート手法に対する考察】

インターネット調査は初めての試みであり、今後の活用について検討するため、回答に対する分析とは別に、インターネットによる手法自体についても以下のとおりまとめたものです。

【メリット】

- ・回答がデータ化されているため、集計が円滑に行えることに加え、集計結果をさらに年齢層や回答日等の様々な切り口で分析することができ、回答者の属性や各種告知の反響等、様々な検証が容易となった。
- ・印刷や郵送等、紙媒体のアンケートの際にかかる費用が不要となる。
- ・回答に至ったきっかけとして、SNSやホームページ等のインターネット媒体によるものが過半数を占めたことと、議会からの情報発信の手段としてSNSやYouTube等を期待する声が多かったことなどから、情報収集の手段としてインターネットの割合が大きいと思われ、調査の手法として一定の市民のニーズに適していると考えられる。

【課題】

- (1) 日ごろから関心を持ち、インターネットを活用している層からは積極的な回答を得られる反面、そうでない層により周知できる方法を検討する必要がある。
- (2) 調査開始から時間が経つほどに回答数が減少し、開始から約1か月後にはごく少数となったため、調査期間の設定や追加告知を行う時期の検討を要する。
- (3) インターネット調査により利便性や匿名性が向上した反面、特定の議員への個人的な意見が複数あった。このため、特に自由意見の記載については同一人物からの複数回答のおそれなどを精査した上で、意見を慎重に取り扱う必要が生じた。

【課題に対する解決策等】

- (1)、(2) に対して
 - ・全戸配布される市議会だよりを活用し、紙面にアンケートの設問を全部掲載する。また紙面を切り取って返信をしてもらえるような仕様にすれば、より

- 広い層、インターネットを活用しない層にもアプローチできる可能性もある。
- ・ 議会関連の用途以外で他課に来庁する市民へアンケートの存在を周知する（他課窓口にチラシを配付）ほか、市議会だよりの配付先（市内公共施設や学校等）に別途 URL 付のチラシを同封し、適宜掲示してもらうことで告知の機会を増やす。

(1)、(3) に対して

- ・ 回答が特定の関心のある層からの意見だという事を念頭に置き、目的自体を市民の広い意識調査でなく、特定の事柄にフォーカスした意見聴取とする。（例：市議会だよりの“見やすさ”についてなど）